

十干と十支

十干

中国で十二支と同様、年・月・日・時などを表すのに用いられた十の漢字がある。これを十干という。

甲	(コウ・ き のえ)	乙	(オツ・ き のと)
丙	(ヘイ・ ひ のえ)	丁	(テイ・ ひ のと)
戊	(ボ・ つち のえ)	己	(キ・ つち のと)
庚	(コウ・ か のえ)	辛	(シン・ か のと)
壬	(ジン・ みず のえ)	癸	(キ・ みず のと)

十支

「十支」とは、十干の「十」と十二支の「支」とをあわせた言葉である。十干の「甲(きのえ)」と十二支の「子(ね)」とをあわせて、「今年(こね)はきのえね(甲子)だ。」というように称する。

「甲子園球場」(兵庫県西宮市)が完成した一九二四(大正十三年)は「きのえね(甲子)」にあたる。

五行

右の囲みの中の傍線部分には「き」「ひ」「つち」「か」「みず」が並んでいる。これはそれぞれ「木」「火」「土」「金」「水」を表している。この五字のことを五行という。五行は、中国の学説において万物組成の元素と考えられていた。たいへん重んじられていた思想の一つである。

「閏土」の名前の由来

『故郷』の登場人物「閏土」の名前は、「閏月の生まれ」だから「閏」、「五行の土が欠けている」から「土」、この二つをあわせて「閏土」としたとある。この「五行の土が欠けている」とは、どういうことなのだろうか。生まれた年・月・日・時の四つに十干をあてると、例えば、生まれた年は「甲」、生まれた月は「乙」、生まれた日は「丙」、生まれた時は「丁」というように、四つのそれぞれに十干のどれかがあてはまることになる。閏土の場合、年・月・日・時のいずれにも、「土」を含む「つちのえ(戊)」「つちのと(己)」が入っていない、ということである。